

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	名古屋工業大学
設置者名	国立大学法人名古屋工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配置 困難
			全学 共通 科目	学部等 共通科 目	専門 科目	合計		
工学部	生命・応用化学科	夜・通信		71	8	79	13	
	物理工学科	夜・通信			4	75	13	
	電気・機械工学科	夜・通信			48	119	13	
	情報工学科	夜・通信			8	79	13	
	社会工学科	夜・通信			84	155	13	
	創造工学教育課程	夜・通信			146	217	13	
	基幹工学教育課程	夜・通信	6	18	24	13		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページの「教育・学部・大学院・センター」から、「シラバス・カリキュラム」を選択し、「名古屋工業大学シラバス公開システム」(https://syllabus.ict.nitech.ac.jp/)を開き、5つのタブから「シラバス検索」を選択し、検索項目の「実務経験のある教員による授業科目」にチェックをして検索する。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋工業大学
設置者名	国立大学法人名古屋工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.nitech.ac.jp/intro/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人役員、株式会社役員、 一般社団法人役員	2年 (2026年4月 1日から2028 年3月31 日)	経営改革、卒業生連携
(備考) (備考) 国立大学法人法別表にて定める理事の員数3名以下			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋工業大学
設置者名	国立大学法人名古屋工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
名古屋工業大学では、毎年1月～3月に、シラバス入力期間を設定し、シラバス教職員用マニュアル及びシラバス記入例に基づき、授業科目担当教員が次年度向けシラバスを作成し、3月中に本学公式HPに公開している。シラバスは毎年度更新し、内容改善や記入漏れを防ぐため、科目区分に応じシラバス確認者を明確にして、教科担当集団代表又は教務学生委員会委員、学科長・課程長・専攻長・工学専攻副専攻長又はプログラム長が点検を行い、フィードバックする仕組みとなっている。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.ict.nitech.ac.jp
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
名古屋工業大学では、学生出欠管理システムにより授業科目担当教員は出欠状況を確認すると共に、授業評価アンケートにより学修意欲の把握に努めている。 各授業の成績評価方法はシラバスに公開し、レポート、小テスト、中間試験、期末試験等の組合せにより、多様な評価観点を基に適正に評価している。 また、卒業研究については、「卒業研究着手条件等」を定め、入学時に学生生活案内により周知する他、毎年進級時に在学生ガイダンスにおいても周知している。その条件を満たした者が卒業研究に着手することとしている。卒業研究の評価にあたっては、卒研プロセス達成度評価におけるルーブリックを導入すると共に、公聴会による最終発表会を経て、可否による判定を行っている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
成績評価の客観的な指標として GPA 制度を導入し、GPA に基づく成績評価の方法を学生生活案内と公式 HP に公表している。 秀 (S)、優 (A)、良 (B)、可 (C)、不可 (D) の 5 段階の成績評価に応じて、4 から 0 までの GP (Grade Point) をつけ、各履修登録科目の単位数に GP を乗じ、その総和を履修登録した科目の単位数の合計で除した数値の小数点以下第三位を四捨五入して GPA を算出し、当該年次までの累計 GPA を算出し学業成績票に記載している。 また、よりきめ細やかな履修指導を行うため、各履修登録科目の単位数に当該 GP を乗じた総和である GPT (Grade Point Total) も活用している。 さらに、専門分野別に GPA を把握するシステムを構築、個々の学生の成績状況を把握し、半期毎の修学指導及び分野分属の決定、卒業研究着手可否の判定に活かしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.nitech.ac.jp/edu/syllabus/result.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
名古屋工業大学では、ディプロマ・ポリシーを定め、人間、文化、社会を理解し、それらを技術的観点から考察する能力と技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感・高い倫理観をもち、工学技術者が果たすべき責任をよく理解し、工学の専門知識と経験を有した者に学位を授与している。 ディプロマ・ポリシーはカリキュラム・ポリシーと連動して定められており、即ち、カリキュラム・ポリシーに基づく各科目の履修基準を達成することにより、ディプロマ・ポリシーを満たすこととなっている。 また、工学部高度工学教育課程・創造工学教育課程にあつては 4 年以上、工学部基幹工学教育課程にあつては 5 年以上在学し、名古屋工業大学教育課程履修規程卒業認定基準に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.nitech.ac.jp/edu/syllabus/recognition.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	名古屋工業大学
設置者名	国立大学法人名古屋工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nitech.ac.jp/intro/corporative/zaimu/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.nitech.ac.jp/intro/corporative/zaimu/index.html
財産目録	https://www.nitech.ac.jp/intro/corporative/zaimu/index.html
事業報告書	https://www.nitech.ac.jp/intro/corporative/zaimu/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.nitech.ac.jp/intro/corporative/zaimu/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 国立大学法人名古屋工業大学中期計画 対象年度: 2022~2027年度)
公表方法: https://www.nitech.ac.jp/intro/corporative/plan/index.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nitech.ac.jp/release/hyoka.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nitech.ac.jp/release/hyoka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nitech.ac.jp/release/edu/purpose.html ）
（概要） 名古屋工業大学は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 83 条第 1 項にのっとり、広く工学に関する学術の教授並びに研究を行い、世界の平和と人類の幸福とに貢献し得る人間の育成に努めることを目的とし、併せて我が国の産業と文化の発展に寄与することを使命とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.nitech.ac.jp/edu/policy_diploma.html） （概要） 工学部：名古屋工業大学工学部は、教育理念に従って次の専門知識や能力を有する技術者を輩出します。名古屋工業大学学則で定める卒業認定の要件を満たした学生に学士の学位を授与します。 〈高度工学教育課程〉（高度工学教育課程とは、生命・応用化学科、物理工学科、電気・機械工学科、情報工学科及び社会工学科の 5 学科の総称をさす。） 1. 人間、文化、社会を理解し、それらを技術的観点から考察する能力と技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感、高い倫理観 2. 現象の理解・操作のための数理的基礎知識と科学的素養 3. 国内外の人々と対話できるコミュニケーション力と論理的思考力 4. 基幹となる専門分野の基盤的な知識・技術とこれによって課題を解決する能力、新たな知識・技術を習得する能力 高度工学教育課程において学士の学位が与えられるものは、工学技術者が果たすべき責任をよく理解し、工学の専門知識と経験をもち、他の分野の人材との協働によって新たな技術の創出に貢献することのできる人物です。 〈創造工学教育課程〉 1. 人間、文化、社会を理解し、それらを技術的観点から考察する能力と技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感、高い倫理観 2. 現象の理解・操作のための数理的基礎知識と科学的素養 3. 国内外の人々と対話できるコミュニケーション力と論理的思考力 4. 基幹となる専門分野の基礎知識と他の分野の知識・技術を関連づけ多面的に見ることによって新たな価値を創出する能力 創造工学教育課程において学士の学位が与えられるものは、工学技術者が果たすべき責任をよく理解し、工学に関する専門知識と経験及び俯瞰的な理解をもち、多様な人材との協働によって新たな価値の創出に貢献することのできる人物です。 〈基幹工学教育課程〉 1. 基幹となる専門分野の基盤的な知識・技術とこれによって課題を解決する能力、新たな知識・技術を習得し創製する能力 2. 現象の理解・操作のための数理的基礎知識と科学的素養 3. 人間、文化、社会を理解し、それらを技術的観点から考察する能力と技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感、高い倫理観

4. 国内外の人々と対話できるコミュニケーション力と論理的思考力

基幹工学教育課程において学士の学位が与えられるのは、工学技術者が果たすべき責任をよく理解し、工学の専門知識と経験を持ち、他の分野の人材との協働によって新たな技術展開をものづくりの現場で実践することのできる人物です。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.nitech.ac.jp/edu/policy_curriculum.html)

(概要)

工学部：名古屋工業大学では教育理念に従って人材を育成するため、以下の観点から、教育課程を編成しています。工学部は、高校までに学んだ基礎学力の上に、工学技術者の使命への理解、社会や現象を解析・モデル化する能力、工学の専門知識とこれを活用する能力を身につけ、未来社会をつくりだす人材を育成します。

そのため、学部を卒業する者が共通して身につけるべき知識・能力を涵養する共通科目及び専門分野の知識・技術を身につける専門教育科目を学習させます。また、高度工学教育課程及び創造工学教育課程については、工学の役割を理解して技術者の能力を身につける工学コア教育科目を学習させます。

〈高度工学教育課程〉（高度工学教育課程とは、生命・応用化学科、物理工学科、電気・機械工学科、情報工学科及び社会工学科の5学科の総称をさす。）

1. 人間、文化、社会を理解し、それらを技術的観点から考察する能力、及び技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感、高い倫理観を身につける。
そのため、共通科目に、技術的観点から人間、文化、社会を考察する力を養う人間社会科目を、工学コア教育科目に、技術と新しい生活をつなぐ強い使命感・責任感、高い倫理観を養う経営リテラシー科目を置く。また、専門教育科目を通じて各技術分野における態度を涵養する。
2. 現象の理解・操作のための数理的基礎知識と科学的素養を身につける。
そのため、共通科目の自然科学基礎科目で自然と数理を理解させ、工学コア教育科目の数理情報科目でデータとして現象等を扱う基礎を修得させる。また、各分野の専門教育科目において数理的基礎を学習させる。
3. 国内外の人々と対話できるコミュニケーション力と論理的思考力を身につける。
そのため、共通科目にグローバルコミュニケーション科目を置く。また、専門教育科目の実験・演習と卒業研究においてグループでの作業・議論・発表を通じてこれらの能力を涵養する。
4. 基幹となる専門分野の基盤的な知識・技術と新たな知識・技術を習得する能力を身につける。
そのため、専門教育科目に体系的に専門分野の科目を置く。また、幅広い工学の知識を概観する工学コア教育科目を置き、専門教育科目で他の分野の科目も履修させる。専門分野の卒業研究においては知識・技術を総合し創造する能力、知識・技術を自ら習得する能力を養う。
5. 課題解決に向けて様々な分野の知識・技術を習得する能力を身につける。
そのため、工学コア教育科目にキャリア形成科目を置き、技術者としての責任を理解し、自身のキャリアを計画するための知識・能力を涵養する。また、工学デザイン科目を通じて様々な工学知識を活用するため、工学の諸要素やその社会との関係を理解する知識・能力を涵養する。

以上によって効果的な教育を行うため、共通科目、工学コア教育科目及び工学分野ごとの体系的専門知識を1年次から4年次まで段階的に修得し、専門と共通科目の知識の相互関連を意識できるよう学習させます。

なお、学修成果は、各授業科目における達成目標の達成度に基づき、公正・厳格な成績評価を行い、ディプロマ・ポリシーに示す知識と能力の達成度を評価します。

〈創造工学教育課程〉

1. 人間，文化，社会を理解し，それらを技術的観点から考察する能力，及び技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感，高い倫理観を身につける。
そのため，共通科目に，技術的観点から人間，文化，社会を考察する力を養う人間社会科目を，工学コア教育科目に技術と新しい生活をつなぐ強い使命感・責任感，高い倫理観を養う経営リテラシー科目を置く。また，専門教育科目を通じて各技術分野における態度を涵養する。
2. 現象の理解・操作のための数理的基礎知識と科学的素養を身につける。
そのため，共通科目の自然科学基礎科目で自然と数理を理解させ，工学コア教育科目の数理情報科目でデータとして現象等を扱う基礎を修得させる。また，各分野の専門教育科目において数理的基礎を学習させる。
3. 国内外の人々とは対話できるコミュニケーション力と論理的思考力を身につける。
そのため，共通科目にグローバルコミュニケーション科目を置く。また，工学コア教育科目に，グループでの作業・議論・発表を通じて意見醸成や問題解決の方法を学ぶ創造方法論科目と創造演習科目を置く。さらに，専門教育科目の演習・実験によってこれらの能力を涵養する。
4. 基幹となる専門分野の基礎と他の分野の知識・技術を関連づける能力を身につける。
そのため，基幹となる専門分野の基礎を学ぶ専門教育科目に主軸専門科目を置く。また，幅広い工学の知識を概観する工学コア教育科目を置き，創造工学設計科目で他の分野を含む専門科目を学び，知識・技術を総合し創造する能力，必要な知識・技術を自身で習得する能力を養う。
5. 社会課題等の解決に向けて様々な分野の知識・技術を結び付ける能力を身につける。
そのため，工学コア教育科目にキャリア形成科目を置き，技術者としての責任を理解し，自身のキャリアを計画するための知識・能力を涵養する。また，工学デザイン科目を通じて様々な工学知識を活用するため，工学の諸要素やその社会との関係を理解する知識・能力を涵養する。特に，創造方法論科目で技術を多面的に見るための手法・態度や技術革新の要素に関する基礎的知識を身につけさせ，創造演習科目での実践を通じて課題解決方法や新たな価値を創造する方法を修得させる。

以上によって効果的な教育を行うため，共通科目，工学コア教育科目及び工学の専門の基礎知識・関心を広げる科目を，相互関連を意識できるように1年次から4年次まで段階的に修得させます。

なお，学修成果は，各授業科目における達成目標の達成度に基づき，公正・厳格な成績評価を行い，ディプロマ・ポリシーに示す知識と能力の達成度を評価します。

本課程は大学院博士前期課程まで学習することを前提とし，大学院へ入学できる学力を得られるよう個別指導，自律的な学習計画・キャリア計画を重視し，学期ごとの達成度評価を行います。

〈基幹工学教育課程〉

1. 人間，文化，社会を理解し，それらを技術的観点から考察する能力，及び技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感，高い倫理観を身につける。そのため，学習への態度とキャリア像を涵養させる1年次前期の科目の後，技術的観点から人間，文化，社会を考察する力を養う人間社会科目と，技術を新しい生活につなぐ強い使命感・責任感，高い倫理観を養う産業・経営リテラシー科目を学習させる。
2. 現象の理解・操作のための数理的基礎知識と科学的素養を身につける。そのため，自然科学基礎科目と各分野の専門教育科目において数理的基礎を学習させる。

3. 国内外の人々と対話できるコミュニケーション力と論理的思考力を身につける。
そのため、グローバルコミュニケーション科目を置く。また、専門教育科目の実験・演習と実践演習の各科目においてグループでの議論・作業・実践・発表を通じてこれらの能力を涵養する。
4. 基幹となる専門分野の基盤的な知識・技術と新たな知識・技術を習得する能力を身につける。そのため、専門教育科目を置き、他の分野を含めて基盤的な科目を中心に履修させる。専門分野の卒業研究ゼミナールにおいて、知識・技術を総合し実践する能力、知識・技術を自ら習得する能力を養う。

以上によって、効果的な教育を行うため、共通科目と工学分野ごとの体系的専門知識を1年次から5年次まで段階的な“積み上げ方式の学修”により修得し、専門教育と共通科目の知識の相互関連を意識できるよう学習をします。

なお、学修成果の評価は、各授業科目における達成目標の達成度に基づき、公正・厳格な成績評価を行い、ディプロマ・ポリシーに示す知識と能力の達成度を評価します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.nitech.ac.jp/examination/gakubu/policy.html>)

(概要)

工学部：教育理念に従って人材を育成するため次を満たす学生を広く国内外から受け入れています。

本学工学部で学ぶ学生は数理的知識とその活用を中心に基礎学力をもち、本学の理念をよく理解し、工学の使命を果たす意欲をもつ人です。

〈**高度工学教育課程**〉(高度工学教育課程とは、生命・応用化学科、物理工学科、電気・機械工学科、情報工学科及び社会工学科の5学科の総称をさす。)

1. 高等学校等で学習する教科・科目の基本的な知識を習得し、これを活用して課題解決を行う能力をもつ人、特に英語の基礎学力と表現力をもつ人
2. 工学や科学技術の学習に特に必要となる数学と理科に関する論理的・数理的・科学的思考力をもつ人
3. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造することで、自然との共生の上に人類の幸福に貢献する意欲をもつ人

〈**創造工学教育課程**〉

1. 高等学校等で学習する教科・科目の基本的な知識を習得し、これを活用して課題解決を行う能力をもつ人、特に英語の基礎学力と表現力をもつ人
2. 工学や科学技術の学習に特に必要となる数学と理科に関する論理的・数理的・科学的思考力をもつ人
3. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造することで、自然との共生の上に人々の幸福に貢献する意欲をもつ人
4. 他者と意見を交わすことのできるコミュニケーション力をもつ人

〈**基幹工学教育課程**〉

1. 高等学校等で学習する教科・科目の基本的な知識を習得し、これを活用して課題解決を行う能力をもつ人
2. 工学や科学技術の学習に特に必要となる数学と理科に関する論理的・数理的・科学的思考力をもつ人
3. 知的探究心が旺盛で、自ら新しい課題を見つけ挑戦し、ものやしくみを創造することで、自然との共生の上に人類の幸福に貢献する意欲をもつ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.nitech.ac.jp/edu/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	8 人	－					8 人
	－	126 人	134 人	0 人	68 人	0 人	328 人
	－	人	人	人	人	人	人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		86 人					86 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://pure.nitech.ac.jp/ja/home/index/?utm_source=chatgpt.com					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
工学教育総合センターの創造教育開発オフィスにおいて、工学教育の質的向上に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメントの推進及び授業評価を実施している。また、全学的な視点からファカルティ・ディベロップメント活動の推進を図ることを目的として、平成 29 年 11 月 1 日より名古屋工業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し、基本方針の策定及び活動の総括等を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	930 人	957 人	102.9%	3760 人	4067 人	108.7%	10 人	15 人
工学部（第二部）	人	人	%	0 人	2 人	0%	0 人	0 人
合計	930 人	957 人	102.9%	3760 人	4069 人	108.7%	10 人	15 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	881 人 (100%)	714 人 (81.0%)	149 人 (16.9%)	19 人 (2.2%)
工学部（第二部）	17 人 (100%)	6 人 (35.3%)	10 人 (58.8%)	1 人 (5.9%)
合計	898 人 (100%)	720 人 (80.2%)	159 人 (17.7%)	20 人 (2.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：名古屋工業大学，東京科学大学，名古屋大学				
就職先：住友電装，トヨタ自動車，鹿島建設，アイヴィス，名古屋市				

(備考) 第一部「進学者数」「就職者数」：就職進学者 1 名をそれぞれに含む
--

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	925 人 (100%)	777 人 (84.0%)	129 人 (13.9%)	33 人 (3.6%)	0 人 (0%)
工学部（第二部）	20 人 (100%)	19 人 (95.0%)	1 人 (5.0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
合計	945 人 (100%)	796 人 (84.2%)	130 人 (13.8%)	33 人 (3.5%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 名古屋工業大学では、毎年 1 月～3 月に各教員が次年度向けシラバス作成を行い、「ディプロマ・ポリシーとの対応」「授業の目的」「達成目標」「授業計画」「成績評価の方法」「成績評価の基準」「事前・事後学習等の指示」について記入し、3 月中に本学公式 HP に公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 名古屋工業大学では、成績評価の客観的な指標として GPA 制度を導入し、成績分布状況を把握することで、適正な成績管理を行っている。また、名古屋工業大学教育課程履修規程卒業認定基準に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	生命・応用化学科	124 単位	有	26 単位
	物理工学科	124 単位	有	26 単位
	電気・機械工学科	124 単位	有	26 単位
	情報工学科	124 単位	有	26 単位
	社会工学科	124 単位	有	26 単位
	創造工学教育課程	130 単位	有	26 単位
	基幹工学教育課程	124 単位	有	20 単位
工学部（第二部）	物質工学科	124 単位	有	20 単位
	機械工学科	124 単位	有	20 単位
	電気情報工学科	124 単位	有	20 単位
	社会開発工学科	124 単位	有	20 単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.nitech.ac.jp/edu/syllabus/result.html		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法 : https://www.nitech.ac.jp/edu/syllabus/recognition.html
----------------------------	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 :
 (土地・建物) <https://www.nitech.ac.jp/intro/about/land.html>
 (学生のための施設) <https://www.nitech.ac.jp/campus/welfarefac.html>
 (交通アクセス) <https://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	生命・応用化学科 物理工学科 電気・機械工学科 情報工学科 社会工学科 創造工学教育課程	642,960 円	282,000 円	円	https://www.nitech.ac.jp/intro/release/edu/fee.html
	基幹工学教育課程	321,480 円	141,000 円	円	https://www.nitech.ac.jp/intro/release/edu/fee.html

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 名古屋工業大学では、学部 1～3 年次の学生に対し、クラス担当委員（教員）を配置し、修学指導を行い、先輩のいる学習室「ピアサポート」では、上級生が履修・学習面及び広く生活面に関する相談に対応している。さらに基礎科目・専門科目ともに学習相談員（教員）にも相談できる環境が整っている。4 年次においては、研究室配属に伴い指導教員を配置し、修学指導・生活指導にあたっている。また、毎年 4 月に保護者へ成績表を送付し、より適切な修学指導を保護者と連携し行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 名古屋工業大学では、学生自身が納得できる進路決定の一助となるよう、工学教育総合センターキャリアサポートオフィスが中心となり、指導教員や、各学科に配置されている就職担当教員と情報共有して、きめ細やかな進路指導を行っている。また、学生生活課とも連携し、就職相談やキャリア形成に関する各種セミナー・就職ガイダンスの実施、インターンシップ事業への取組、求人情報システムによる求人情報の提供等、就職・キャリア支援の充実を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 名古屋工業大学では、学生なんでも相談室と保健センターが中心となり、学務課、学生生活課、国際交流課、キャリアサポートオフィス、クラス担当委員、指導教員等と連携し、学生の心身の問題に応じて必要とする支援内容を検討して取り組むことにより、問題の解決を図っている。障害学生の支援では、学生なんでも相談室に「障害学生支援部門」を設置して取り組んでおり、合理的配慮を実施し、その検証等を行うことで、より適切な支援を提供している。また、ハラスメント防止委員会を設置し、ハラスメント防止のための取組みを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.nitech.ac.jp/release/edu/index.html>

○総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

名古屋工業大学は、世界的な製造業の集積地にキャンパスを構える工科系大学として、創立以来、産学連携と実学教育に力を注ぎ、社会の発展に貢献してきた。

工学を「人との関わりを重視する学問・技術」と位置づけ、計算や論理を司る左脳だけでなく、感性や想像力につながる右脳も含めた全脳に働きかける教育・研究の機会提供を推進している。これは「心で工学」の合言葉に集約され、「心で工学」を実践するため、次の事項を実践している。

（１）共通科目に芸術を導入し、リベラルアーツ教育を強化

本学では、豊かな文化的視点と工学技術者が果たすべき責任をよく理解し、適切なコミュニケーション力や論理的思考力を持ち、複数の工学分野等の専門知識や能力を活用できる技術者を育成・輩出するため、2024年度教育課程改正において、共通教育を「学部が卒業する者が共通して身に付けるべき知識・能力を涵養する共通科目」及び「工学部を卒業し技術者として社会に貢献するために身に付けるべき知識・能力を涵養する工学コア教育科目」の2つの区分に再編した。

特に、共通科目の人間社会科目区分に「美学」、「音楽論」等のより豊かな文化的教育を含む「技術と芸術・文化」区分を新設し、リベラルアーツ教育を強化するとともに、従来創造工学教育課程に設置していた、工学の諸要素やその社会との関係を理解する知識・能力を涵養する「工学デザイン科目」を高度工学教育課程にも開設し、拡張するとともに、当該区分に「工学分野方法論」科目を新設し、他の工学分野の諸要素や方法論について修得させ、幅広い工学の知識を概観させる。これらの改革により文理横断型の教育、複線的多面的な学びを実現する。

（２）数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、活用する基礎的能力を育成する数理情報履修モデルの設定

デジタル時代に必要な基礎的能力を身に付けさせるため、学部学生を対象とした数理情報教育の履修モデル設計に取り組み、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成する数理情報履修モデルを設定し、実施している。当該履修モデルベースコースは、2021年度に文部科学省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度リテラシーレベル」の認定を取得したことに加えて、スタンダードコースは2022年度に「応用基礎レベル」の認定を取得した。更に、2024年度から、大学院生を対象とした、より高度な数理情報教育を行う「数理情報履修モデル」も実施している。

（３）新しい価値を創造する力を養う 6 年一貫の創造工学教育課程

2016年に設置した創造工学教育課程は、主軸となる専門分野を中心に幅広い工学知識を組み合わせ、新しい価値を創造するための実践力を養う 6 年一貫の教育プログラムであり、分野横断的な視野で専門の幅を広げる「創造工学設計科目」、価値創造に必要なスキルや応用力を磨く「工学デザイン科目」など、実践的なカリキュラムが用意され、さらに専門分野の学びに加えて、他分野から必要な科目を選択履修することで独自の学びを設計している。

これらの取り組みをはじめとした教育の不断の改革・実践により、名古屋工業大学は学生の知識・能力の幅を広げ、新しい時代の要求に応える柔軟性と適応性を備えた人材を育て上げており、単なる技術者ではなく、社会の変化をリードする実践力を備えた技術者・研究者を排出し続けている。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123110106438
学校名 (〇〇大学 等)	名古屋工業大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人名古屋工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		724人（ 556 ）人	709人（ 547 ）人	1,433人（1,103）人
内 訳	第Ⅰ区分	128人	119人	
	(うち多子世帯)	(27人)	(17人)	
	第Ⅱ区分	46人	49人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(一人)	
	第Ⅲ区分	39人	27人	
	(うち多子世帯)	(11人)	(一人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	58人	61人	
	区分外（多子世帯）	453人	(一人)	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ ）人
合計（年間）				1,436人（1,104）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	15人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	14人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	115人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	115人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。